

みなさん、こんにちは！

日ごとに気温が上がり、少しずつ夏が近づいてきていますね。(マスクがつらい陽気です…)

16日(土)に補助教材を受け取った人は、記名しておきましょう。

新しいテキストを前にすると、やる気が湧いてくるのではないのでしょうか。

引き続き気を引き締めて学習しましょう。

では、今週の課題です。

高校1年生

【国語総合】全クラスの課題

教科書 羅生門 芥川龍之介をよく読み、解説動画等を参考に、ルーズルフ1ページ分や、A4のコピー用紙1枚などに自分なりにまとめなさい。作者の経歴、時代背景、他の作家との関連などさまざまなことを調べましょう。以下の①～⑤の要素は必ずいれましょう。

- ①登場人物
- ②舞台背景
- ③あらすじ
- ④テーマ
- ⑤感想

※ルーズルフ1枚分は目安です。A4のコピー用紙1枚やそれに類するものであれば構いません。

※以下の解説動画等に限らず、ほかの動画やサイトを見て自分なりの解釈を見つけてみてください。

- ・NHK 高校講座 羅生門 (1)

https://www.nhk.or.jp/kokokoza/radio/r2_kokugo/archive/chapter035.html

- ・動く絵本「羅生門」

<https://www.youtube.com/watch?v=OSkQy4EvRnE>

- ・【羅生門】～芥川龍之介の傑作を「鼻／地獄変／西方の人」など人気作と合わせて一挙解説！～

<https://www.youtube.com/watch?v=i5jZQb3bz-M>

★先生たち おすすめの短編



「青空文庫」で読める短編を紹介します。ぜひ読んでみて！



小川 未明 『赤い蝋燭と人魚』

連休中に久しぶりに「A. I」という映画を観ました。昔、映画館に観に行った映画なのですが、今回は家族にも観て欲しかったので、家で鑑賞しました。「A. I」とは、「Artificial Intelligence」のこと。とても精巧に作られた男の子の人工知能ロボットのお話です。私は長い間、この映画のことを折に触れ思いだし、胸の締め付けられる気持ちになりました。人間と人工知能の共存による繁栄と困難は現在でもよく耳にしますね。現在放送中の仮面ライダー「ゼロワン」でも AI と人間の友情や戦いが繰り広げられています。（え？見てる？）私たちは異質なものと出会ったとき、本能的に自分たちを守ろうとするのか、差別の対象を探しているかのように、相手を卑下し、攻撃をすることがままあるのです。いじめの原理もそうですね。「桃太郎」は鬼を退治し、おじいさんとおばあさんと幸せになったお話ですが、もしも私たちの身の回りに果物から出てきた友達がいたとしたら？そして、「人魚」がいたとしたら…？暗いお話かもしれません。しかし、私たちが直面している状況は、世界の人々が同じ地球人として手をとりあって協力をしていかなければならないものです。誰かを批判したり、卑下したり、差別してはとうてい終わりは見えない状況にありますね。人は自分だけでは幸せになれません。ひとと分かち合ってこそ本当の幸せが訪れるのではないのでしょうか。それが、たとえ AI でも、人魚であっても…

『赤い蝋燭と人魚』 https://www.aozora.gr.jp/cards/001475/files/54372_46225.html



小川 未明 『時計のない村』

「〇〇時に集合ね！」…そんな約束が当たり前のようにできる今。でも、昔は「時間」という考えはありませんでした。日が昇る頃、沈む頃…時間に縛られず、空を見て行動するって、今の私たちにはない感覚でいいなと思います。この作品は日本の童謡らしい、どこかゆったりとした話の流れです。「〇〇時までには〇〇に行かなきゃ！…終わらせなきゃ！」と時間に縛られていた私たち。でも今は、「今日一日をどうやって過ごそう。。」そんなことを考えたりします。時間に縛られないで少しゆとりのある今だからこそ、いつもとは違うこと、今までやりたくてもできなかったこと、、、してください！その中に、ゆっくりと読書！なんて選択肢があってもいいと思います。

『時計のない村』 https://www.aozora.gr.jp/cards/001475/files/51009_51334.html



芥川 龍之介 『手巾』

「奥ゆかしい」という言葉を知っていますか？ もう古語になりつつある言葉かもしれません。語源は古語の「ゆかし」です。*重要古語です！

ゆかし:形容詞シク活用 ①見たい。聞きたい。知りたい。②心が引かれる。慕わしい。懐かしい。

「奥ゆかしい」は、つまり「奥が知りたい！」と感じさせる様子。控え目で前に出てこないからこそ、奥深さがあって心惹かれる魅力的な感じ。

感情表現は人それぞれ。さらに国や文化、時代によっても違います。事件や事故のニュースで、悲しみや怒りを全身で表現する外国の人たちが映し出されると、日本ではあまり見ない状況にとまどいを感じることもあります。でも、「奥ゆかしい」のが美德であるとする日本の風潮もだいぶ変わってきたように思います。

『手巾』では、悲しみを胸におし込めてこらえる女性を見た教授が「日本女性の武士道だー!」と感激します。でも、ほんとうはどうなのでしょう…。

* 『手巾』は「ハンカチ (ハンケチ)」と読みます。

『手巾』 https://www.aozora.gr.jp/cards/000879/files/43_15268.html



フランツ・カフカ 『変身』

「朝、目覚めると自分の身体が毒虫になっていた」という冒頭文で始まるこの作品。なぜ、こんな異常な事態になってしまったのか。その謎はわからないまま、ふだんと変わらない日常が過ぎていく。不可思議な世界に迷い込んでいるはずなのに、ありふれた日常のように進んでいく物語。様々な解釈を呼び起こした海外文学最高傑作のひとつです。こんな時だからこそ、非日常の世界を体験してみてください。そして想像力を持ってください。朝起きたら虫になっている。ありえないですよ。でも、ありえないと思っていたことが、現実には起きています。思ってもみないことから、家族や他人の気持ちまで。わかるわけないと切り捨てずに、想像力をもって、過ごしましょう。

『変身』 https://www.aozora.gr.jp/cards/001235/files/49866_41897.html